

臨床放射線

編集委員

後 閑 武 彦
橋 本 順
今 井 裕
栗 原 泰 之
森 壘
山 下 孝

編集協力委員

畠 中 正 光
小 川 恭 弘
松 永 尚 文
森 宣
村 田 喜 代 史

編集後記

▶明けましておめでとうございます。今年も新年のご挨拶とともに胸部の特集号をお届けする時期になりました。今回も心臓・肺ともに、バラエティに富んだ内容で、最新の診断技術についての知識を与えてくれる報告、これまで培った知識の整理に役立つ報告など多岐にわたり、読者の方々の期待に添える内容であると思います。

▶私事ですが、12月の日曜日に吸気時のみの強い胸痛と発熱があり、自宅近くの病院で単純X線写真を撮ったところ特に所見がありませんでした。担当の先生と相談し、胸部CTを撮ったところ、左肺舌区の肺炎が胸膜に達していることがわかりました。吸気息止めで強い胸痛がありましたが短時間で撮像が終わり、心陰影との重なりのために単純X線写真ではよくわからない病変も明瞭に描出され、CTのありがたさを身に染みて感じました。

▶関東地方で活動をしている核医学の研究会である「放射線診療研究会」が創立50周年を迎え、昨年12月5日に記念パーティが行われました。会が始まった1966年当時は骨シンチや心筋血流検査、脳血流検査などではなく、CTやMRI、エコーもない時代でした。研究会の機関誌「臨床核医学」は1968年に創刊され、創刊号で $^{99m}\text{TcO}_4^-$ を用いた脳シンチグラフィにおいて、BBBが破綻した脳腫瘍の部分にRIが淡く集積しているプラナー像が掲載されています。しかしCTやMRIがない時代に非侵襲的に脳腫瘍が描出できるということが、どんなに画期的なことか容易に想像されますし、さぞかしい時代であったのだらうとも思われます。ちなみに診断能の評価は、血管造影ならびに気脳撮影との対比により行われています。このような時代から存在する研究会の歴史の重さをあらためて感じるとともに、今年で創刊62年となる「臨床放射線」の伝統の重みを、編集委員としてあらためて自覚するきっかけにもなりました。日進月歩の放射線医学の今を、読者のみなさまにタイムリーにお伝えできるように今後も努力いたす所存ですので、本年もどうぞよろしくお願いいたします。

橋本 順

「臨床放射線」第62巻第1号（増大号）

2017年1月10日発行（毎月10日発行）

定価（本体4,400円＋税）

年間購読料金 定価（本体39,900円＋税）
[年間13冊（臨時増刊号、増大号を含む）の誌代]
年間予約購読者に限り送料無料

発行所 金原出版株式会社

発行者 福村直樹

〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-14

TEL 03(3811)7165 編集部直通

TEL 03(3811)7184 営業部直通

FAX 03(3813)0288

ホームページ <http://www.kanehara-shuppan.co.jp/>

振替口座 00130-1-191269

印刷所 三報社印刷株式会社

広告申込先 福田商店 TEL 06(6941)5600
FAX 06(6941)5605

JCOPY <（社）出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に、（社）出版者著作権管理機構（電話03-3513-6969、FAX03-3513-6979、e-mail:info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。